

夢みるだけで終われない。

学び、人に触れ、広い視点で日々新たな流れをつくる



Presenter 1
アンガ・ヘルマンダさん (インドネシア)
 pforile
 【アンガ・ヘルマンダさん】
 100万人の小農民を束ねるインドネシア農民組合(SPI)で活動。インドネシアの伝統的な布製品パティックのシャツで登場。

参加者の感想

鈴木清治さん
 日本でニカラグアのようなアグロエコロジーが通用するのは疑問ですが、私は良いとこ取りのアグロエコロジーを進めて行きたい。

佐藤幸治さん
 海外と日本の取り組みの違いや活動の仕方が知れて良かったです。そして、インドネシアの人の話は面白かった。

青木志穂さん
 認識の違いが面白く、また理解しあう上で難しい問題でもあった。専門的な話して難しいところもあったが些細なところで「なるほど」と思うところもあった。

安藤優太さん
 地域の農民連では自分が一番若いです。同世代の仲間はふやさなくてはいけないと思いました。権利獲得には数の力が必要ですね！

江田あさみさん
 ふたりとも意識が高く「次世代へ繋いでいこう」と思いが強いと感じました。言葉や文化の違いはあっても、農業に対する思いは世界共通なんだと実感。私も農民連でできることを楽しんでやっていこうと思います。

「青年には世界を変える力がある」
 アンガ・ヘルマンダさん (インドネシア)
 「青年には世界を変える力がある」
 長い植民地時代。そして、緑の革命の中で優良種子、さらには遺伝子組み換え種子の開発に取って代わった結果、1500種類の地元種子(在来種)が消失。当時の政府は、小農の結社の自由を抑圧した。
 SPIは、インドネシアの様々な州の小農組織を繋げ、国際的な小農運動とともにたたかってきた。組織をつくるには教育が必要。それを農民だけでなくみんなで学ぶことが大切。将来的には種子を自分たちで採取し、農民の権利を確立していく運動を強めていきたい。SPIの青年部は、日本と言う農水省に抗議行動、農業青年向けの学校を開校している。
 インドネシア初代大統領スカルノの言葉
 『老人が1000人いてもできるのは夢見ることだけだが、青年には世界を変えることができる』



アグロエコロジーとは？
 アグロエコロジー (Agroecology) は世界で現在推進されている工業化された農業に対するオルタナティブと広く認知され始めている農業や社会のあり方であり、それを求める運動であり、科学のことを意味します。
 様:オルター・トレード・ジャパンHPより

「たたかいと希望を世界に広げよう」
 エリカ・アイリ・タケオさん (ニカラグア)
 人口600万人のニカラグア。ATCは小農民5万人の組織で40年前に誕生した。ATCは農村の権利、農民の地位向上を目指し活動。教育や訓練を重視し、青年、女性の活動を進めている。大規模農場の労働者の権利、賃金交渉も行っている。今アグロエコロジーを企業が乗っ取るうとしている。アグロエコロジーは小農民、先住民のアイデンティティを取り戻し、食糧主権を確立するための最も大切な柱。農村に若い人呼び込む。
社会を変える教育
 ラテンアメリカ・アグロエコロジー協会 (IARA) では、たたかえ、組織をつくれ、アグロエコロジーと革命を同時につくれをスローガンに若いメンバーにイデオロギー、価値観、社会を変える教育を行っている。授業料は無料。この学校に専門家はいない。小農民同士の教えあいを通じ農民はそれぞれの地域に戻りアグロエコロジーを広げる。
 『我々は人々に食料を提供しながら、世界を変革するための運動を築く。たたかいと希望を世界に広げよう』



Presenter 2
エリカ・アイリ・タケオさん (ニカラグア)
 pforile
 【エリカ・アイリ・タケオさん】
 ニカラグア農村労働者組合(ATC)で活動。「アグロエコロジー」教育のプロフェッショナル。

農民連フラッシュ① 県北農民連、福島市へ要請

2月15日、福島市へ新規就農者に関する要望書を提出、懇談を行いました。農業次世代人材投資事業において、申請の段階でハードルを上げないでください、サポート体制を拡充してほしい、福島市独自の新規就農者支援制度を設けてくださいと要望しました。



農民連フラッシュ② 農民連の役割を果たす

2月25日喜多市市内で会津農民連第31回定期総会が開催されました。戸別所得補償制度、減反廃止など営農の困難はあるが、政策要求、物づくりや税金などの取り組みを通して、会津での農民連の役割を果たしていくことが提案されました。



NOTE 若き農業者のつぶやき せいねんぶ農人

国際農民組織ピア・カンペシーナから2人の農業青年が福島に来てくれました。アグロエコロジーという考え方を知り、更に農業のもつ多様性や小さいコミュニティでも実践できるヒントを学びました。世界共通である農業の現状を情報共有できて貴重な機会となりました。 by菅野

